

# あなたはどちらの国に生きるのか？失われた者V

## 「あなたの目は何をみているのか」

ルカ10：17-34

### ■ 王様と贈り物

ある国に病気がちな王様がいました。一人の農夫が栄養のある黒い人参を一生懸命に育て、王様に「これを食べてどうか元気になって下さい」と贈り物をします。すると、感動した王様は彼に広い土地を与え、「その志を持って、この国の他の人も健康にしてほしい」と言われました。そんなやり取りを見ていたある貴族は、王様が彼に褒美を与えたのを見て羨ましく思い、自分も贈り物を持っていくことにしました。黒く輝く毛並みの馬を選んで王様に贈ろうとしたが、王様はそれを受け取りませんでした。「農夫の贈った人参は喜んで褒美まで与えたのに、もっと高価な自分の贈り物はなぜ受け取ってもらえないのか」と貴族が問うと、王様は「それはあなたが、あなた自身の為にしたことであって私の為にしたことではない」と言われました。王様は贈り物を喜んだのではなく、この農夫の想いを喜ばれたのです。この貴族は、贈り物の本来の目的を忘れて自分の利益になることだけが大切になっていました。

この話を見ると、私達が普段している行為もこのようなことが多いのではないかと気付かされます。お中元とお歳暮などもその例です。贈り物をする本来の目的を忘れて、付き合いや習慣だけになっていないでしょうか。私達は上辺を気にしてしましますが、神様はそれを行う私達の心を見ておられます。

### ■ 本質を見る

あなたの目にカラスは何色に見えますか？私達が普段見ているカラスは黒く見えますが、本当は紫のような色をしています。人の目で認識できる色(可視光線)の範囲は決まっているので、本来の色は見えません。私達が見えるのは一部だけが本質は見えていないのです。

また、カラスがゴミを漁る姿に悪いイメージを持つ人もいません。しかし、彼らは分解者たちのリーダーであり、生態系を守る大切な役割を担っています。私達は目に見える情報に左右されがちですが、大事なものは物事の本質を見ることです。

### ■ 目線の違い (弟子たちとイエス様)

弟子たちはイエス様から力を貰い、遣わされた先で多くの奇跡を起こしました。弟子たちは大喜びで帰ってきましたが、イエス様は弟子たちに「そんなことで喜んではいけません。あなたの名前が天国に書き記されていることだけを喜びなさい」と言われます。

【ちょうどこのとき、イエスは、聖霊によって喜びにあふれて言われた。】(ルカ 10：21)

弟子たちとイエス様の見る喜びは違いました。弟子たちが世の中での成功を喜んでいながら、イエス様は聖霊によって喜んでいと聖書には書かれています。

私達は目から得られる知識だけで判断しようとするため、何が正しいのか分からなくなってしまいます。多くの方が他人からの言葉や態度といった目に見えるものに影響されてしまうのです。あなたの目線は、ずれていないでしょうか。

【これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。】(ルカ 10：21)

私達の知る世の中の賢さや知恵は、神様の方法とは違います。私達には人から評価されたいという欲の目がありますが、幼子のように素直な心で神様を見て聞こうとすることが大切なのです。

【すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。】(ルカ 10：22)

全ての物は神様から貰ったものです。弟子たちが行った、人の生き返りや悪霊の追い出しのような奇跡はイエス様にとって当たり前のことであり、特別に喜ぶことではありませんでした。この箇所からも、弟子たちとイエス様では見ているものが違うということが分かります。

### ■ 律法の専門家とイエス様

【すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスをためそうとして言った。「先生、何をしたら永遠のいのちを自分のものとして受けることができるでしょうか。】(ルカ 10：25)

当時は律法を守ることが永遠の命を得ることだと考えられていました。この専門家はイエス様が律法をないがしろにしていると思い、ためそうとしたのです。

イエス様は彼に【「律法には、何と書いてありますか。あなたはどの読んでいますか】(ルカ 10：26)と尋ねます。私達は目の前に起きることで、人から言われたことをどう受け止めているでしょうか。多くの場合に、私達は読み方を間違えてしまいます。

【『すると彼は答えて言った。『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くし、知性を尽くして、あなたの神である主を愛せよ』、また『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』とあります。】(ルカ 10：27)

「隣人」とは誰のことか、イエス様はたとえ話をういて話されます。強盗に襲われ、持ち物を奪われて怪我をした人がいました。律法学者やレビ人がそこを通りましたが、見て見ぬふりをしてそのまま離れて行ってしまいました。しかし、一人のサマリア人が彼をかわいそうに思い、傷の手当てをして助けてあげました。私達も、この善きサマリア人のように行いなさいと教えられています。

イエス様はこのたとえ話を通して、この話に出てくるサマリア人と自分は同じだと伝えていきます。傷ついた旅人は、人生の中でたくさんの物を奪われ、失う私達のことを示しています。イエス様は、このサマリア人のようにあなたをかわいそうに思い、助けようとしてくださいます。また、一方で私達は去っていった律法学者やレビ人と同じ面も持っていることを知っておかなければなりません。

私達にとって「喜び」とは何でしょうか。うまくいったこと(結果)に対して喜ぶことはよくあります。私達は働き(doing)といった見えるものに目を向けてしまいがちです。しかし、イエス様が喜ぶことは、結果は関係ありません。目に見えることのために行うのではなく、目に見えないことのために行うのです。すると、目に見えるものにも良い影響が起きます。

### ■ ノーベル賞作家：パールバック

彼女の著書に「母よ嘆くなかれ」という本があります。彼女は作家として成功しますが、人から評価される中で自分の心が失われていくことに気がませんでした。その彼女の娘は知的障害を持って生まれます。娘と向き合っていく中で、彼女の目線は変えられていきました。世の中では問題視される知的障害も神様は問題として見ることはないと思ったのです。娘の素晴らしさを感じる中で、障害を持っているとしても嘆く必要はないことに気がきます。

「もし私の娘が知的障害者でなかったなら私は私より劣っている人を蔑視した。しかし神様が知的障害の娘をくださり、すべての人が神様の御前には平等だということを学ぶことができるようにしてくださいました。」

彼女にとっての幸いは、このことを通して彼女自身の目線が変えられたことです。世の中の認識では障害者である娘も、神様にとっては一人の人生を変えることのできる素晴らしい者です。

### ■ 神様を見る

あなたは今、何かを奪われてはいませんか。社会で適応できるものが正しいように見えてしまいますが、神様は私達にそれは少し違うのではないかと問いかけています。私達は大切なものを見失っていることが多くあります。今、自分の目線がずれていないか探らなければいけません。

弟子たちもパリサイ人たちと同じ目線で物事を見ていました。人々から素晴らしいと評価されることが大事だったのです。しかし、大切なものは目に見えるものではありません。違うものを見ているなら、それを置いて神様を見ましょう。神様は失ったものを取り戻すために私達の所に来てくださいます。

### ■ さいごに

地位やお金、環境、人との関係など、世の中には私達の目を見えなくさせる多くの物があります。私達は人からの評価といった結果を求めてしまいがちですが、神様が向き合うのは結果ではなくプロセスであり、それは私たち自身です。神様は結果ではなく今の私達を見てくださいます。

私達の目が開かれて、見るべき物が見えるように祈りましょう。

(要約者：池田 優香)

(2023年9月10日)